

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500590

研究課題名（和文） 新外国人住民のアイデンティティ形成にスポーツが果たす意義と役割

研究課題名（英文） Significance and Roles of Sports in Establishing Identities among the Newly Migrated.

研究代表者

平井 肇 (HIRAI HAJIME)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：70199032

研究成果の概要（和文）：

本研究では、主にオーストラリアの南太平洋諸島出身者コミュニティとラグビー、オーストラリアのヨーロッパ系移民コミュニティとサッカー、日本の外国人のためのアスレティッククラブ、台湾と韓国の野球の普及と日本人および在日韓国人・台湾人の関係の分析を行った。その結果、スポーツが、国境を越えて移動し、異国に定住ないしは半定住する人々にとって、彼らの内向きおよび外向きのアイデンティティの形成に重要かつ効果的な役割を果たしていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The primary purpose of this research is to investigate relationships between (1) rugby and immigrants from the South Pacific in Australia, (2) soccer and immigrants from South and Eastern Europe in Australia, (3) sports and an athletic and social club established by Europeans and Americans in Japan, and (4) baseball in Taiwan and Korea during the colonial and postcolonial periods and Japanese, Taiwanese in Japan and Koreans in Japan. Research results indicate sports have played important and effective roles for immigrants to establish their sense of identities.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：スポーツ社会学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学

キーワード：スポーツ グローバル化 ラグビー サッカー 野球 オーストラリア 韓国
台湾

1. 研究開始当初の背景

近代スポーツの多くは、主として19世紀後半から20世紀前半にかけて、英国や米国を中心に制度化・組織化され、世界中に伝播

していった。その担い手は、役人や商人、技師、教師をはじめとして海外に赴任した人々、移民として母国を離れた人々、留学から本国に戻った人々等であった。我が国でも、明治

維新以降、スポーツ経験のある外国人が自ら楽しむ目的でスポーツを始めたが、次第に教育の現場や職場を中心に日本社会に浸透していった。20世紀後半以降、一流競技者の海外での活躍が、新聞やラジオ、テレビなどのマスメディアを通して伝えられ、スポーツの普及に貢献した。以後、スポーツの大衆化が進み、スポーツを実践することだけでなく、スポーツを観ること、読むこと、語ることも、大衆文化の一形態として人々の生活の一部となっている。

そして、21世紀に入りグローバル化が急速かつ大規模に進展する中で、過去とは比較にならないくらい多様なバックグラウンドを持った人々、多様な動機を持った人々が、より大規模に国境を越えて移動するようになった。それに伴って、スポーツの伝播・受容・普及を巡る状況も、より大規模、多様化してきている。このように、国境を越えて移動する人々がスポーツの普及に果たしてきた意義と役割は小さくはないが、スポーツが国境を越えて移動した人々にとって果たした意義と役割も決して無視できない。すなわち、国境を越えて移動する人々の生活にとっても、自らのアイデンティティを形成する上で、スポーツは重要な役割を果たしてきたのである。

本研究に関係する分野の研究、特にスポーツの伝播・受容・普及は、スポーツ歴史学および社会学において主要なテーマであった。近年、スポーツのグローバル化に関する研究が盛んに行われている。特に、人の移動に関しては、トップアスリートの国境を越えた移動に関する研究が盛んである。しかし、これらの研究は、個々の関心のある特定の国籍の人々や種目等のケーススタディに基づく、スポーツ参加者の分類や実態調査が中心であって、本研究の狙いである定住者および半定住者の日常生活およびコミュニティのサブカルチャーの枠組みの中でのスポーツの意義や役割について踏み込んだ研究は見あたらない。

近年、日本に定住ないしは半定住する外国人が増加している。それに伴って、彼らのバックグラウンド、ライフスタイル、日本との関わりも多様化しており、日本人・日本社会が、彼らとどのように向き合っていくかが大きな問題となってきている。また同時に、彼らにとっても自分たちの文化や習慣を守り、アイデンティティを維持すると同時に、日本人・日本社会とどのように距離を取るのかが大きな関心事となっている。つまり内向きと外向きのアイデンティティが、時には調和し

時には葛藤している。その際、日本社会より早く外国人の定住化・半定住化が進んできた社会での状況を参考にすることは大変有効であると思われる。

2. 研究の目的

本研究では、国境を越えて移動し、異国に定住ないしは半定住する人々にとって、スポーツが彼らの内向きおよび外向きのアイデンティティ形成に際して果たす社会・文化的な意義や役割に注目し、分析・検討をした。

具体的には、以下の項目を中心に調査・研究を行った。

- (1) オーストラリアにおける南太平洋諸島出身者コミュニティにとってのラグビーの意義と役割
- (2) オーストラリアにおけるヨーロッパからの移民コミュニティにとってのサッカーの意義と役割
- (3) 日本における判定中の外国人コミュニティにとってのスポーツクラブの意義と役割
- (4) 台湾と韓国における野球の普及と日本人および在日韓国人・台湾人が果たした意義と役割

3. 研究の方法

H21・22年度は、主として各サブテーマに関わって基礎的資料の収集・解読や、関係者との面接、研究協力者との意見交換を通して仮説を検証する期間と位置づけて調査研究を行った。H21年度は、国内での資料収集・解読の作業の他に、オーストラリアで資料収集と研究者との意見交換を中心に調査を行った。H22年度も引き続きオーストラリアで現地の移民コミュニティを訪問して、関係者への聞き取り調査等を行った。H23年度は、主として前年度までの調査結果を元に成果をまとめ、学会や研究会等での報告を行った。

4. 研究成果

H21年度は、国境を越えて移動し、異国に定住ないしは半定住する人々にとって、スポーツが彼らの内向きおよび外向きのアイデンティティ形成に際して果たす社会・文化的な意義や役割に注目し、分析・検討をしていくための初期の段階として、資料の収集と関係者への面接を中心に調査を行った。具体的には、以下の項目について調査を実施した。

オーストラリアにおける南欧・東欧からの

移民コミュニティにとってのサッカークラブの意義と役割、南太平洋諸島出身者のコミュニティにとってのラグビーの意義と役割について、豪メルボルンのディーキン大学、モナッシュ大学、ビクトリア大学の研究者と情報・意見交流を行った。また、実際にサッカークラブやラグビークラブを訪問し、運営に関係している人たちや試合観戦者に対して聞き取りを行った。その結果、彼らにとって、クラブは、アイデンティティの形成から職の斡旋に至るまで、日常生活で重要な役割を果たしている存在であって、クラブが果たす役割は単なる娯楽提供の場だけではないことが明らかになった。

日本最初の外国人スポーツクラブである Yokohama Country and Athletic Club (YC & AC) の歴史的意義と役割、現在の活動等について文献収集・解説を中心に分析を行った。その結果、YC & AC が日本へのスポーツの伝播と普及に果たしてきた歴史的な役割について、その重要性が再認識できたとともに、現在も外国人のコミュニティ形成と現地（日本）社会を結びつけるのに一定の役割を維持していることが確認された。

H22 年度は、国境を越えて移動し、異国に定住ないしは半定住する人々にとって、スポーツが彼らの内向きおよび外向きのアイデンティティ形成に際して果たす社会・文化的な意義や役割に注目し、資料の収集と関係者への面接を中心に調査を行った。具体的には、以下の項目について調査を実施した。

オーストラリアにおける南欧・東欧からの移民コミュニティおよび南太平洋諸島出身者の移民コミュニティにとってのサッカークラブとラグビークラブの意義と役割について、豪メルボルンのビクトリア大学とモナッシュ大学の研究者と情報・意見交流を行った。また、昨年に引き続き、実際にサッカークラブとラグビークラブを訪問し、運営に関係している人たちや試合観戦者に対して聞き取りを行った。今回は特に、ドイツ系の移民によって結成され、ビクトリア州の地域リーグに加盟するサッカークラブを中心に調査を行った。その結果、主たる構成員が第二世代以降に移った後も、民族のアイデンティティ形成のために機能しており、活動は多岐にわたることが明らかになった。

日本における外国人の帰属意識とスポーツの関係について、引き続き調査を行った。今年度は、特に韓国やモンゴル、中国など東アジアの人々の間でのスポーツの役割に注目し、資料収集を中心に調査を行った。その一部を、豪メルボルンのビクトリア大学のセ

ミナーで、「Contemporary Issue in the World of Sumo」と題して報告した。

また、台湾と韓国における野球の伝播・普及に日本人と在日台湾・韓国人が果たした意義と役割について、台湾師範大学の研究者の協力の下、文献解説を中心に調査結果をまとめた。その結果、特に母国と日本を往復する野球経験者が果たしてきた役割の大きさが再確認された。両国の野球は、日本の野球の影響を強く受けながらも、時には反日・抗日のシンボリック的存在となり、国家のアイデンティティ形成に大きな役割を果たしてきたことも確認された。

H23 年度は、オーストラリアにおける南欧・東欧からの移民コミュニティおよび南太平洋諸島出身者の移民コミュニティにとってのサッカークラブとラグビークラブの意義と役割についてまとめの作業を行った。ここで得た知見は個人のホームページに掲載し、主に学部および大学院の授業で活用する予定で、現在準備中である。

また、全体のまとめとして、4月の国際会議 (International IJHS* Conference/Workshop、) で、日本における南太平洋諸国出身のラグビー選手に関する報告「Rugby in Japan」を行った。9月の国際会議(9月: The 3rd International Society for the Social Sciences of Sport) で、東アジアにおける国際関係と野球に関する報告「Glocalisation of baseball in Japan, Korea and Taiwan」を行った

*IJHS: International Journal of the History of Sport

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計4件)

① Hajime Hirai, 'Glocalisation of baseball in Japan, Korea and Taiwan,' : The 3rd International Society for the Social Sciences of Sport, Palacky University, Olomouc, Czech Republic, 2011年9月24日

② Hajime Hirai, 'Rugby in Japan' Soft Power Politics- Origins and Evolution

International IJHS Conference /Workshop,
Cairns Institute, James Cook University,
Cairns, Australia, 2011年4月30日

③ Hajime Hirai, 'Contemporary Issue in
the World of Sumo', School of Sport and
Exercise Science Seminar, Victoria
University, Melbourne, Australia, 2011
年3月8日

④ 平井 肇 「グローバル化とアジアのスポー
ツ」『AJ フォーラム』 国士舘大学, 2010年1
月30日

[図書] (計1件)

① 平井 肇 「グローバル化の光と影」『よく
わかるスポーツ文化論』 井上俊 菊幸一編
著 152-153 ミネルヴァ書房 2012年

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平井 肇 (HIRAI HAJIME)
滋賀大学・教育学部・教授
研究者番号：70199032

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし